

## 「米材役物製品について」

米材役物製品担当

株式会社氏橋商店

羽山 孝一

米材役物製品を語る上で一番重要な事は、オールド・グロウス米材丸太の存在です。現在の新木場ではその丸太の姿を見る事が出来なくなりましたが、まずは米材役物丸太について少しお話をさせていただきます。

戦後昭和23年より米材丸太の輸入が再開され、昭和36年以降は大量の米材丸太が輸入されるようになりました。米材原木問屋という名称も定着され、木場には多くの原木問屋が幅広く商いを展開するようになりました。木場での丸太商いは水面が基本です。東京湾に入港した本船より原木が水面に落とされ、そこで仮筏組をし、貯木場へと回漕されます。その後、貯木場では問屋の人間が丸太1本、1本を検品し、検尺をし、等級付けをし、各等級ごとに再び筏が組まれていきます。その水



スプリース丸太筏

面での現場作業一切を仕切っていたのが川並と呼ばれる連中でした。木場と川並は切っても切り離すことの出来ない関係にありました。問屋の若い衆は、川並と一緒に仕事が出来て初めて一人前と言われるような時代でしたから、1日中川並と仕事をする事によって机上では学ぶことの出来ない、多くの丸太の勉強をさせてもらう事が出来ました。また、川並も丸太の目利きが出来なければ親方にはなれませんでしたから、彼等との時間は厳しくもあり、また、貴重な時間でもありました。今では、その丸太の商いも新木場では殆ど見られなくなりました。川並という職業も今では無くなってしまいましたが、米材役物製品を取り扱う上で丸太の目利きは一番重要なポイントになっていきます。

ここで米材役物製品のお話に戻りたいと思います。米材役物製品とは、主にカナダに於いて大径木中心にオールド・グロウスの丸太を日本向けサイズに製材し、各サイズごとにグレーディングされた製材品の事を指します。一般的なサイズは9インチ・6 1/2インチ・4 3/8インチ・2インチ・1 1/2インチ等の厚みに製材されま

木場川並  
出典：「木場」郷愁の下町



スプルスカスタムカット

す。そしてそのサイズごとに3種類～7種類のグレーディングをしていきます。日本へ入荷後は、建具材・建築材等用途に合わせてそれぞれ販売されていきます。そして、その製材された商品はカスタムカットという名称で呼ばれています。カスタムカットには、現地サプライヤーが自社のリスクでカスタムカットをし、日本向けに輸入販売されるケース。日本の商社が自社のリスクにて丸太を購入、カスタムカットして日本向けに販売するケース。そして問屋が自らのリスクで現地より直接丸太を購入し、カスタムカットして日本向け販売するケース。大きくこの3つのパターンに分かれていましたが、今では現地サプライヤーによるカット、商社リスクでのカットは殆ど無くなり、問屋リスクでのカットだけが販売されている状況です。自社のリスクにて丸太を購入する為、製材が終了するまでその損得は判明しません。そこで先程お話をした丸太の目利きが必要となる訳です。しかし、いくら丸太の目利きが必要とされても、製材が終了するまで損得がわからないような商品は、現代の木材業界の流れとは逆行するようなものです。その為か、現在ではカスタムカットを扱う問屋の数も大きく減少しています。そのような状況下にある米材役物製品ですが、マーケットは今でもその必要性を認め、供給の継続性を望む声には強いものがあります。ある意味伝統ある木場の業界に於いて、その木場の文化を受け継ぐ商品でもあるかと、少しは思っております。少々情緒じみたお話になってしまいましたが、少しでもこの米材役物製品の世界をご理解頂けたならば幸いです。